

5 複合性フェロモン剤「コンフューザーV」によるアズキ害虫の防除

ねらいと成果

神崎郡神河町でアズキを加害するハスモンヨトウ等のヤガ類に対する交信攪乱剤を用いた防除試験を行った。その結果、交信攪乱効果、交尾阻害効果のいずれも高く、ほ場での幼虫密度抑制効果もあり、高い実用性が認められた。

内容

2005～2006年の2年間、神崎郡神河町吉富地区のアズキほ場で10 a 当たり100本のコンフューザーVをほ場内に均一に設置し、防除効果を調査した。

試験ほ場は処理区、無処理区をそれぞれ7 ha とし、コンフューザーVをほ場に設置後、ハスモンヨトウ等5種類のヤガ類のフェロモントラップを各区に設置し、誘引数を比較することにより交信攪乱効果を調査した。交尾阻害試験はハスモンヨトウのみで行った。飼育未交尾雌を夜間にほ場につなぎ、翌朝交尾の有無を確認するつなぎ雌法により調査した。作物の被害については、ほ場でハスモンヨトウの卵塊や幼虫発生状況調査を行い、幼虫密度抑制効果を検討した。

その結果、交信攪乱効果はハスモンヨトウでは2年間とも高い効果が得られた。他のヤガ類についてはシロイチモジヨトウ、タマナヤガは無処理区でも発生数が少なかったが、ある程度の効果は認められた。オオタバコガは後半にフェロモンの効果が不足するようであったが、前半には高い効果が認められた。カブラヤガでは効果は認められなかった(表)。

交尾阻害効果はハスモンヨトウでは2年間とも高く(図1)、ほ場での幼虫発生状況等も少なく(図2)、密度抑制効果があると考えられた。

これらのことより、コンフューザーVはアズキを加害するハスモンヨトウに高い防除効果が認められた。

今後の方針

現在、コンフューザーVは豆類(種実)でハスモンヨトウとシロイチモジヨトウに登録がある。今後はこれら以外の害虫類に対する防除効果や対応を更に検討していく必要がある。

二井 清友(淡路農技セ・農業部)
(問い合わせ先 電話:0799-42-4880)

表 各種ヤガ類に対する誘引阻害効果

対象虫	2005年			2006年		
	誘引個体数		誘引阻害率(%)	誘引個体数		誘引阻害率(%)
	処理区	無処理区		処理区	無処理区	
ハスモンヨトウ	9	3649	99.8	11	2886	99.6
オオタバコガ	124	226	45.1	305	646	52.8
タマナヤガ	7	13	46.2	7	109	93.6
カブラヤガ	448	420	0.0	601	617	2.6
シロイチモジヨトウ	24	107	77.6	7	12	41.7

$$\text{誘引阻害率} = (1 - (\text{処理区誘引数} / \text{無処理区誘引数})) \times 100$$



図1 ハスモンヨトウの交尾率
(調査個体数は2005年は90頭、2006年は60頭)



図2 ハスモンヨトウの発生状況
(各区10ほ場、100株調査の平均)